

2007年度(平成19年度)学校評価自己評価表

校番 11	福山市立 鳳 中学校
-------	------------

1 学校教育目標

人を大切にし、自ら学び、自ら考え、主体的に行動する生徒の育成

2 経営理念

(1) 地域社会における自校の使命(ミッション)

地域社会を支え、日本や世界の各地で活躍する社会人となるための基礎力の育成

(2) 使命の追及を通じて実現しようとする自校の将来像(ビジョン)

学力 安心・安全 指導力 経営力 スクールインテグリティ	学ぶ意欲や思考力・判断力・表現力・創造力など質の高い学力 一人一人が安心して学校生活を送り、自分を伸ばせる教育環境 確かな授業計画と充実した教育研究による指導方法工夫改善 マネジメントサイクルを活かした学校、学級、教科経営 創立42年の歴史と伝統、誇り、高い満足度
--	--

3 自校の現状分析

- 課題 -

授業規律の遵守、指導方法の工夫改善が課題である。
 (2・3年生が入学時に行ったCRT標準学力検査(5教科)では、
 全国平均をやや下回っている。1年生は4月入学時に実施する。)

毅然とした指導と一致した行動が必要である。
 (昨年度の定着状況調査では、「人間関係」「自己実現力」「自己効力感」「コミュニケーション能力」が県平均に比べて大幅に低い。)

実施が徹底していないことが課題である。
 (昨年6月の授業改善月間には、94%の教員が指導案作成・授業公開を行った。10月の指導案作成・授業公開は69%にとどまっている。)

授業・生徒指導で、改善が目に見えることが必要である。
 (11月の調査では、「学校に対する肯定的な評価」は生徒62%、保護者41%(分からないが22%)である。)

4 研究主題

(1) 研究主題 (2) 研究指定 5 今年度の重点目標と設定理由

確かな学力を育むための組織的取り組みに関わる実践研究
 - 授業力の向上を核として -

指定	事業名等	期間
市	教育研究支援授業 - 理科 -	平成17～19年度

重点目標	設定理由
自己の行動に責任を持つ ・あいさつ・マナーの慣行 ・授業力の向上 ・体験、経験活動の充実 ・和文化教育の研究・導入	「守破離」の「守」の充実 (確かな学力・豊かな心・健やかな体の 基盤として、自ら学び考える力を伸ばす とともに、自尊感情・規範意識の高揚を 図る。)

「守・破・離」について

日本古来の学びの型である。何事につけても、自主性・自発性・創意工夫(破・離)へ繋がっていくための土台(守)づくりを大切にしていかなければならない。また、それを具現化するための一つの切り口として、和文化学習を取り入れたい。

「守」...基礎・基本をしっかりと学ぶ。教えられた型から入り、それを大事にする。
 「破」...「守」を自分のものとし、その型を乗り越える工夫をしていく。
 「離」...型を離れ、自由に振る舞えるようになる。

6 評価基準

評価	基準	
A	80%以上の達成度	目標を達成できた
B	60%以上80%未満の達成度	概ね目標を達成できた
C	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった
D	40%未満の達成度	目標を達成できなかった

7 目標・評価項目の設定と評価

市重点目標	中期目標	短期経営目標	評価項目	分類	評価	短期経営目標の達成状況及び 次年度への改善策	次年度 方針	
確 か な 学 力	基礎・基本の確実な定着	生徒の「授業満足度」に対する肯定的評価を80%以上にする。	授業規律指導マニュアル(チャイム席, あいさつ, 発表など)に基づいた指導を行う。	重点・見直し	A	全校一斉の授業改善月間や学級単位で「チャイム席」「発表」などの目標を設定し点検を行った結果, 全校生徒が意識して取り組んだ。授業でカードを提示し「本時のねらい」を確認し, 授業を進めた。生徒からも「今日の授業のねらいは?」などの声が出された。論理的思考力を育てる為の「結果 理由説明」という発表の仕方を徹底させていく。	継続	
			教師の「毎時, ねらいに沿った指導と評価をした」に対する肯定的評価を80%以上にする。	新規	A		見直し	
		各種検査の通過率(達成率)を昨年度より向上させる。	CRT等の標準学力検査を実施し, 学力定着状況を把握し, 定着不足の領域について教材(問題)プリントを作成し復習を行う。	継続	B		基礎・基本定着状況調査達成率の昨年度比では国語(読むこと, 書くこと)が低い。数学はほぼ同様, 英語は昨年度より上がっている。基礎・基本定着のため, 計画的に復習プリントを作成していく。	見直し
		家庭学習が1日1時間未満の生徒数を半減させる。	自主ノート提出率を80%以上にする。	見直し	A		家庭学習時間は昨年度に比べ1~2時間の生徒が約17%増えた。自主ノート提出率は平均77%で, 増加の傾向にある。漢字や英単語の反復練習, ノート整理などにとどまらず, ワークや自作プリントなどによるドリル形式の自主ノートの取り組みをさらに進める。	見直し
	論理的思考力, 豊かな表現力の育成	「感動体験ジュニアレポーター」に認定される生徒の割合を80%以上にする。	定期的に読書量を調査し, 表彰する。	継続	B	ジュニアレポーター認定率58% ・朝読書の平均冊数は11冊 ・作品応募一覧 * 人権についての作文(3年:国語) * 詩・木下夕爾賞(2年:国語) * 税の書写コンクール(1年:国語) * ヤング短歌賞(3年:選択国語) ・あゆみの提出率は学校全体(84.6%) 1学年...約82%・2学年...約94% 3学年...約78% あゆみの内容充実(点検活動, 学活・通信等で継続的に返していく), 朝読書の充実(点検活動)	見直し	
			「ことばの教育」に係る作品公募に積極的に参加させるとともに, 優秀な意見文, 小論文等を発表・表彰する。	見直し	A		見直し	
			あゆみ(生活記録)の提出率を80%以上にする。	継続	A		継続	

市重点目標	中期目標	短期経営目標	評価項目	分類	評価	短期経営目標の達成状況及び次年度への改善策	次年度方針	
豊かな心	豊かな心情と創造的な活動の育成	生徒の「ルールやマナーの遵守」に対する肯定的評価を80%以上にする。	生活指導マニュアル(遅刻, 服装, 言葉遣いなど)をもとに, 全員で統一した指導を行う。	重点・見直し	A	生徒会活動とリンクさせた点検活動を行った。また, 保護者との連携や学年会などでの生徒実態の交流が進み, 機能的な取り組みや対応ができるようになった結果, 問題行動も大幅に減少した。引き続き, 校内での統一的な指導を行い, 家庭や関係機関との連携を密にする。指導記録の継続的な記入とその交流を行う。	継続	
			道徳の時間にTT指導を積極的に取り入れるとともに, 全教員1回以上の校内授業研究(道徳)を行う。	見直し	A		見直し	
			指導記録(個人加)を継続的に記入する。	見直し	B		見直し	
		生徒会活動を充実させる	委員会・係活動において, 毎月, 具体的な目標を設定し, 点検活動を行う。	新規	B		後期の点検活動が十分でなかった。委員会の枠を越えた予定をたてる。	継続
			部活動の顧問は, 週3日以上活動につく。	新規	A		生徒指導上の問題もあり, 確実に週3回以上部活動についている。評価項目を変更して, 生徒の参加率を高めて行きたい。	見直し
		健康教育を充実させる	朝食の喫食率を90%以上にする。	継続	A		2月調査では「ほぼ毎日食べている」は93.5%である。「全く食べない」が6月調査の3.1%から1.9%に減少している。	継続
2 入 (O Y	学校評価システムを核とした経営	保護者の「学校満足度」に対する肯定的評価を80%以上にする。	年2回(6月, 10月)授業改善月間を設定し, 全員が学習指導案を作成し授業公開を行う。	重点・見直し	A	6月に道徳(TT), 10月に各教科の授業公開を教師全員が行い, 「見取り用紙」による授業分析と反省を行いながら, 授業の工夫を行った。定期的に分掌部会を実施し評価改善を図った。また, 校外での研修への参加はほぼ年間計画通り行えた。保護者の満足度は85%(昨年度10月比+32%)と上昇した。教職員のさらなる授業力向上の為, 学習指導案の再検討など, 研修の時間・内容を増やす。	継続	
			評価・改善のための分掌部会を毎月開催し, 改善を図る。	新規	A			
			研修センターや教育研究団体が開催する任意研修会へ3回以上参加する。	継続	B			
メ テ ニ 5 ミ G ハ	結果責任を果たすための組織的な取り組み	全職員が, 自分の役割を果たす	学校評価自己評価表及び自己申告書に基づき, 校務分掌上の職責を果たす。	重点・見直し	A	やるべき役割は, 概ね果たせている。全体や先を見通す視点を持った計画を立案する。	見直し	
		情報を, 積極的に発信・受信する。	学校通信(鳳中通信) ...月1回発行 ホームページ ...月3回以上更新 “学校へ行こう”週間 ...年2回実施 外部アンケート ...年2回実施 学校評価自己評価表に基づく実践報告会...11月開催 小学6年生児童・保護者対象のオープンスクール ...11月開催	継続	B	情報の発信・受信は, ほぼ積極的に行ったが, ホームページの更新は十分ではなかった。年3回行ったアンケートでは, 昨年度より肯定的な評価が増えた。教職員, 生徒, 保護者の意識の差をもとにした取り組みを行う。	継続	